Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

7月号—No.279
2018.6.25
（毎月1回25日発行）

東京文化会館「ミュージック・ワークショップ・フェスタ〈夏〉」
©Mino Inoue

●目次／*contents*

特集「2018年夏のフェスティバル」

フェスティバルカレンダー……2

夏休み子ども企画カレンダー……5

地域通信……9

財団からのお知らせ……11

「地域創造フェスティバル2018」参加者募集／平成30年度「邦楽地域活性化事業」全体研修会参加者募集／平成30年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」募集開始／平成30年度「ステージラボ『公立ホール・劇場マネージャーコース』」&「文化政策幹部セミナー」参加者募集／平成31年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

平成31・32年度「公立美術館活性化事業」募集

平成31・32年度「市町村立美術館活性化事業」
平成31・32年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」（2か年）
平成31年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」（単年度）
平成31年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」
平成31年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

今月のレポート……16

さいたま市　プラザノース「ノースであそぼう！あーとひろばの日2018」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

特集「2018年 夏のフェスティバル」

恒例の「夏のフェスティバル特集号」の季節となりました。話題の大型企画から定番イベントまで、一挙にご紹介します。

写真
左上：飛生芸術祭
指輪ホテル「Good Morning, TOBIU!」
ASAKO YOSHIKAWA
右上：大田区民ホールアプリコ「アプリコみんなの音楽祭」
左下：名取市文化会館「Art for Kids@なとり わくわく楽しい音楽会」
右下：ロームシアター京都「プレイ！シアター in Summer」（COOL☆こどもディスコ）
©Takuya Matsumi

2018年7月～9月 フェスティバルカレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
会は会場、問は問い合わせ先です。
（つ は地域創造助成事業）

音楽

●札幌市　7月7日～8月1日

パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）2018

今年で29回目を迎える国際教育音楽祭。オーディションに合格した24カ国・地域から102人の若手音楽家（PMFアカデミー生）が札幌に集まり、欧米の主要オーケストラで活躍する教授陣などから1か月にわたり指導を受けた成果を披露する。PMF創設者レナード・バーンスタインの生誕100年を記念したプログラムも多く演奏される。
会札幌コンサートホールKitara、札幌芸術の森・野外ステージほか
問パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
Tel. 011-242-2211

●北海道中札内村　7月28日、29日、8月26日、9月9日

中札内村 花と絵のある音楽祭

平成27年に第10回をもって終了した「北の大地ビエンナーレ」に代わる新たなアートの村づくりとして始まった「なかさつ音まちプロジェクト」の一環として開催。第1回となる今回は、「花と絵のある音楽祭」と題し、6月～9月の間、中札内村内で継続して音楽イベントを開催。音楽を身近に感じることができる機会を提供する。
会中札内文化創造センター、道の駅なかさつない
問中札内村教育委員会
Tel. 0155-67-2929

●宮城県石巻市　8月26日

第15回トリコローレ音楽祭

「海、人、そして音楽」をテーマに、音楽を愛する演奏者と市民の交流の場として2004年から始まった市民音楽祭。15回目となる今回は、約770名以上の演奏家が出演する予定。青空の下、ロックやジャズ、吹奏楽など、さまざまなジャンルの音楽が街中に響きわたる1日となる。

昨年の様子

会石巻中心市街地
問トリコローレ音楽祭実行委員会事務局（街づくりまんぼう内）
Tel. 0225-23-2109

●群馬県草津町　8月17日～30日

第39回草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティヴァル

国内外から演奏家を迎え、講習会と演奏会により構成される音楽祭。今年は「自然が創造する音楽」をテーマにルネサンス、バロックから現代まで、多くの作曲家が試みた自然へのオマージュをコンサートプログラムで紹介する。生誕200年のグノーと没後100年のドビュッシーの音楽も取り上げる。
会草津音楽の森国際コンサートホールほか
問草津夏期国際音楽アカデミー事務局　Tel. 03-5790-5561

●東京都台東区ほか　7月21日～29日

ミュージック・ワークショップ・フェスタ〈夏〉

海外で先駆的な教育普及活動を行っているポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携し

て行うフェスティバル企画。0歳から大人までを対象に、7日間で11種類のワークショップを開催する。ジャンルを越えた音楽の楽しさを体験しながら、創造性や協調性を育む独自の参加型教育プログラムとなっている。
会東京文化会館ほか
問東京文化会館
Tel. 03-3828-2111

●東京都墨田区　7月21日
すみだサマーコンサート2018
原田慶太楼指揮、鈴木ユキオ振付・演出・出演による、オーケストラとダンスのコラボレーション。ストラヴィンスキー作曲『火の鳥』で、世代やハンディキャップを超えて墨田区民ダンサーが共演する。今年「すみだ×新日本フィルハーモニー交響楽団フランチャイズ30周年」を彩る企画のひとつ。
会問すみだトリフォニーホール
Tel. 03-5608-5404

区民ダンサー練習風景

●東京都大田区　7月27日～29日
アプリコみんなの音楽祭2018
2007年から開催している音楽祭。12回目の今年は開館20周年記念事業でもある。大ホールでは今年の音楽祭のために結成された合唱団も出演するオペラ『椿姫』を上演するほか、演奏パフォーマンスと特殊照明作家による光と影のアートが彩る体験型のコンサート、楽器体験コーナー、屋外でのサイレント盆踊りなどが開催される。
会大田区民ホール・アプリコ
問大田区文化振興協会
Tel. 03-3750-1611

●新潟県佐渡市 8月17日～19日
アース・セレブレーション2018
「響く島。SADO」をスローガンに掲げ、野外ライブや芝居小屋でのコンサートを中心に、ワークショップやプロ・アマ問わずパフォーマンスを披露できるフリンジ、プレ公演「薪能」など、佐渡全島で多彩なプログラムを展開する。今年から立ち上げが本格化する「さどの島銀河芸術祭」とも連動した企画が実施される。
会佐渡市内各所
問アース・セレブレーション実行委員会　Tel. 0259-81-4100

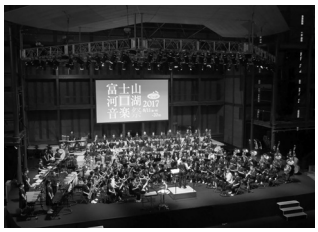
昨年の様子

●富山県南砺市　8月24日～26日
スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2018
「音楽を通しての異文化交流」をテーマに1991年から毎年開催されている音楽フェスティバル。今年で28回目。ワールドミュージックの紹介を通して世界各地のさまざまな文化との出会いと交流の場をつくり、相互理解はもちろん、地域に根差した新たな音楽文化の創造を目指す。200人を超えるボランティアスタッフが企画・運営を支える。
会南砺市福野文化創造センター「ヘリオス」ほか
問スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会　Tel. 0763-22-1125

●福井県越前市 9月9日～16日
武生国際音楽祭2018
有志ボランティアによる音楽祭推進会議により企画・運営され29回目を迎える国際音楽祭。今年は「ブラームスから21世紀音楽の新しい地平へ」をテーマに、世界中から一流の演奏家や若手演奏家が集結し、多くの新作が披露される。街なかコンサートや若手演奏家育成のための「武生国際夏季アカデミー」など関連企画も充実。
会越前市文化センターほか
問武生国際音楽祭推進会議事務局　Tel. 0778-23-5057

2017ファイナル合唱

●山梨県富士河口湖町　8月11日～19日
富士山河口湖音楽祭2018
開催17回目の今年は、7月6日から始まるプレ演奏会を含め約40プログラムをお届けする。「宮川彬良＆シエナ・ウインド・オーケストラ2018夏スペシャル・コンサート」をはじめ、管打楽器の魅力満載のラインナップ。音楽祭初期から続く中学生特別バンドの参加では、今回ついにOBによるバンド結成の企画も。
会河口湖ステラシアターほか
問富士山河口湖音楽祭実行委員会　Tel. 0555-72-5588



富士山河口湖音楽祭2017より

●長野県松本市　8月18日～9月7日
2018 セイジ・オザワ 松本フェスティバル
世界中から優れた音楽家たちが結集したサイトウ・キネン・オーケストラを中心に、オペラやオーケストラコンサート、室内楽など多彩な演目が披露される。小澤征爾音楽塾による教育プログラムの公演では、若い音楽家の教育のみならず、数多くの小中学生たちに生の音楽にふれてもらうことにも力を入れている。
会キッセイ文化ホール、まつもと市民芸術館ほか
問セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員会
Tel. 0263-39-0001

●長野県長野市　7月7日～16日
アートメントNAGANO 2018
久石譲が指揮・プロデュースする「ナガノ・チェンバー・オーケストラ」によるベートーヴェンの交響曲全曲演奏会を軸に、クラシック音楽の醍醐味を味わえるものから、映画音楽などエンターテインメント性を追求した公演、まちの賑わいを醸成するフリンジ（市民参加）企画など、多様なプログラムが行われる。
会長野市芸術館ほか
問長野市文化芸術振興財団
Tel. 026-219-3100

昨年のミュージックフューチャー in長野

●長崎県佐世保市　8月18日、19日
アルカス 九十九島音楽祭
「海・島・風・夏」をテーマに、アルカスSASEBO全館を挙げての夏の一大イベント。4回目を迎える今年は「みんなで作る音楽祭」としてリニューアルする。ステージには公募した市民演奏家のほか、

topics

●「市民プロジェクト」で市民が新潟の魅力を発信 水と土の芸術祭2018

日本の二大河川である信濃川と阿賀野川の河口を有する港町で、日本一の米どころでもある新潟市。「水と土の芸術祭」は、“水と土”によって形成された地域の文化に光を当て、3年に一度開催する芸術祭です。

「市民の参加性が高いことが、この芸術祭の特徴です」と事務局の樋口智紀さん。芸術祭のプログラムは、アーティスト38組によるアートプロジェクトやシンポジウム、こどもプロジェクト、にいがたJIMAN（新潟の水と土が生み出した食と農や、豊作を祈る神楽等の伝統芸能を紹介）と多岐にわたりますが、そのひとつが「市民プロジェクト」です。

“水と土”をテーマに市民が企画・運営するプロジェクトで、公募により84件が実施予定。「この『市民プロジェクト』と『こどもプロジェクト』は、芸術祭がない年も継続して取り組んでいます。芸術祭の間の年にも実施することで、市民の方からの芸術祭やアートへの理解も深まってきているように感じています」（樋口さん）。継続の先の新たな取り組みとして、今年は84件中12件が他のプロジェクトとの広報や連携の核となり、繋ぎ手役を担う「地域拠点プロジェクト」も開始されます。市内に暮らしているからこそ知っている文化の発信や、過去の芸術祭に参加したアーティストとの協働など、水と土が育んできた新潟、芸術祭の継続が形づくってきたものを感じられる企画が目白押し。

水と土を切り口に、アートや食、芸能など、多彩に展開される芸術祭には、新潟の魅力が満載です。普遍的なテーマを土台に、地域に根づいた芸術祭を目指します。

●新潟市　7月14日～10月8日
㊟万代島多目的広場ほか市内全域
㊟水と土の芸術祭2018実行委員会　Tel. 025-226-2629
http://2018.mizu-tsuchi.jp/

日比野克彦《BOAT HOUSE DOCK YARD［船の家　造船所］》（水と土の芸術祭2015）
撮影：中村脩

バラエティ豊かな5組のゲストが出演。親子で楽しめるさまざまなワークショップエリアも創設する。
㊟㊟アルカスSASEBO
Tel. 0956-42-1111

●鹿児島県霧島市　7月19日～8月5日

第39回霧島国際音楽祭2018

1980年に始まった歴史ある音楽祭で、今年で39回目。世界各地で活躍する60名余りの名手たちが、受講生も交えて2週間にわたり約60公演を開催する。参加する教授陣やアーティストの中にはかつてのマスタークラス修了生も多く、アジアを代表する音楽祭として、質の高い演奏はもちろん、気軽に足を運べる無料コンサートも開催する。
㊟霧島国際音楽ホール、宝山ホールほか
㊟みやまコンセール
Tel. 0995-78-8000

演劇・ダンス

●高知県高知市　7月13日、14日

高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2018　日本・オランダ国際共同製作　雅歌（GAKA）

向井山朋子が欧州最大の野外舞台芸術祭「ウーロル・フェスティバル」と共同製作した新作『雅歌』を発表する。儀式をテーマとした「音楽とダンス、声、祈り」で構成される本作を、山田うん振付のもと公募で選ばれた地元出演者と共に披露。同フェスティバルにちなみ、美術館の中庭と夕刻の空を借景として日本初上演する。
㊟㊟高知県立美術館
Tel. 088-866-8000

©Kiriko Mechanicus

●沖縄県那覇市ほか　7月22日～29日

りっかりっか＊フェスタ（2018 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）

今年で開催15回目となるファミリーのための国際舞台芸術フェスティバル。スコットランドにフォーカスしつつ、ロシア、デンマーク、南アフリカ、日本を含む世界各地の27の作品、計105ステージが楽しめる。無料プログラムも用意され、那覇や宜野座のさまざまな会場で、児童・青少年演劇の魅力を体験できる8日間。
㊟那覇おもろまち近辺ほか
㊟りっかりっか＊フェスタ事務局
Tel. 098-943-1357（10:00–17:30）

美術

●北海道白老町　9月8日～16日

飛生芸術祭2018

今年10周年を迎えるアートフェスティバル。旧校舎をアトリエとする芸術家を中心に、かつての森を取り戻そうと始めた周辺の森づくりや、地域住民との繋がりをつくる場として年に一度開催。初日から2日間は芸術祭のオープニング「TOBIU CAMP」を開催。ライブやアイヌの民族舞踊等が行われ、森で一昼夜を過ごすことができる。
㊟㊟飛生アートコミュニティー（旧飛生小学校）
Tel. 090-3592-6822

●福島県いわき市　8月26日～9月23日

ART MEETING―「田人の森に遊ぶ」―2018

2001年から田人町在住のアーティストが母体となって繰り広げられてきたアートに関するフェスティバル。いわき市の南部に位置する田人町全体が美術館となり、町内のさまざまな場所（主に屋外）に展示された県内外約50名のアーティストによる作品を、田人町ののどかな風景とともに楽しむことができる。
㊟いわき市田人町内各所
㊟田人地域振興協議会
Tel. 0246-69-2111

●新潟県十日町市・津南町　7月29日～9月17日

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018

2000年に過疎高齢化の進む越後妻有地域を舞台にスタートし、今年で7回目を迎える国際芸術祭。アートを道しるべに里山を巡る新しい旅は、アートによる地域づくりの先進事例として、国内外から注目を集めている。今回はこれまでに制作された常設作品に加え、世界各地から招聘された160組を超えるアーティストによる新作が公開される。

会越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)
問大地の芸術祭 実行委員会事務局　Tel. 025-757-2637

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］でのレアンドロ・エルリッヒ新作《Palimpsest》(写真は作品イメージ)

●長野県御代田町　8月11日～9月30日

浅間国際フォトフェスティバル

「Return to camera」をテーマに、国内外の写真家による作品数百点を展示するフォトフェスティバル。屋外を中心に大型の写真作品が展示され、大自然の中で作品を鑑賞できる。閉館した美術館跡地では次年度以降「御代田写真美術館」の開館も準備中で、御代田町の景観を生かしながら、にぎわいを創出していくことを目指している。
会旧メルシャン軽井沢美術館、エコールみよた、しなの鉄道
問浅間国際フォトフェスティバル(PHOTO MIYOTA)実行委員会
Tel. 0267-32-3112

●広島市　8月23日～27日

第17回広島国際アニメーションフェスティバル

1985年の創設以来、2年に一度開催されてきた国際映画祭。「愛と平和」を精神とし、アニメーション芸術の発展と、それを通じた異文化交流を促進している。今年は88カ国・地域から応募された2,842作品の中から75作品がコンペティション作品として選ばれ、公開審査が行われる。
会JMSアステールプラザ
問広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会事務局
Tel. 082-245-0245

総合

●福島県福島市　8月11日、12日

フェスティバルFUKUSHIMA！2018

東日本大震災での原子力発電所事故地として国内外に知られる福島から、芸術文化を通して、福島での問題を見つめ、未来を考える場とすることを目的に始まったプロジェクト。音楽ライブやオリジナルの盆踊りなどによる参加型のフェスティバルで、今年8回目を迎える。
会福島市街なか広場
問プロジェクトFUKUSHIMA！実行委員会　Tel. 024-573-8385

昨年の様子(納涼！盆踊り)©椎木静寧

●福島県喜多方市　8月3日～6日

喜多方発21世紀シアター

「0才の子どもが成人するまで続けたい」という想いで始まり、今年で19回目を迎える。演劇や音楽、落語や大道芸などさまざまなジャンルの公演が市内各所で開催され、4日間で100を超える公演が予定されている。小学校高学年から70歳代まで、延べ約550人のボランティアが運営を担う。
会喜多方プラザ文化センターほか
問喜多方発21世紀シアター実行委員会　Tel. 0241-24-4611

ホール・美術館
夏休み子ども企画カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
会は会場、問は問い合わせ先です。
(☞は地域創造助成事業)

音楽・演劇・ダンス

●仙台市　7月28日～8月10日

こどものための能講座2018

仙台市に寄贈された個人所有の稽古用能舞台が移築された「能-BOX」で毎年行われている、4～15歳を対象にした能体験プログラム。講師は観世流能楽師・山中牙晶。所定の日時から1回1時間、計6回稽古に参加し、能楽に脈々の受け継がれた「和」の姿勢や動き、発声、心を学ぶ。発表会では最後に一人ひとりに修了証が手渡される。
会問せんだい演劇工房10-BOX
Tel. 022-782-7510

●宮城県名取市　7月16日

Art for Kids@なとり わくわく楽しい音楽会～バロックンロール 夏フェス 2018～

子どものための芸術体験シリーズ「Art for Kids@なとり」の一環で、名取市文化会館と連携している仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバーが市内全小学校の4年生を対象にアウトリーチを実施した後、音楽や楽器に関心をもった子どもたちへの次のステップとして開催しているファミリーコンサート。8回目の今年はバッハやヘンデル、ヴィヴァルディなどバロック音楽の魅力を、ユニークなアレンジを交えて伝える。
会問名取市文化会館
Tel. 022-384-8900

●千葉市　7月16日～8月4日

中学・高校生のための舞台スタッフ体験講座～みんなでツクル・ライブ～ ☞

エンタメ業界の第一線で活躍しているクリエイターに舞台づくりに必要なスタッフワークを学ぶプログラム。AKB48のスタイリングやヘアメイクなどを手がるオサレカンパニー、セレクトショップを全国展開しているURBAN RESEARCHと協力し、衣装・ヘアメイクの2コースに分かれて講座を受講 。最終日に音楽ライブ制作スタッフの一員として舞台づくりを体験するほか、参加者の家族のスタイリングもしてもらう。
会千葉市文化センター
問千葉市文化振興財団
Tel. 043-221-2411

昨年の様子

●東京都渋谷区　7月27日～8月1日

子どもと舞台芸術 大博覧会 in Tokyo 2018

子どもたちと舞台芸術との出会いのために芸術文化・教育関係者が連携し、ネットワークを広げる場を提供する日本最大の“子どもと舞台芸術”の見本市。200を超える関係団体が一堂に会し、各種セミナーやシンポジウムが行われるほか、全国のプロ・アマ団体による演劇・人形劇・音楽・伝統芸能・大道芸の公演やショーケース、ワークショップなど多種多様なプログラムで、あそび・舞台芸術体験の魅力を発信する。
会国立オリンピック記念青少年総合センター
問子どもと舞台芸術大博覧会実行委員会　Tel. 03-3351-2131

topics

●劇場がキャンプ場に変身？！ KAATキッズ・プログラム2018『キッズ・サマー・パーティー』

「決してこどもだましではない、大人も子どもも一緒に楽しめる作品」をモットーにプログラムづくりを行っているKAATキッズ・プログラムの新シリーズとして、0歳児から家族で気軽に劇場を楽しむことができるイベント「キッズ・サマー・パーティー」シリーズが立ち上がります。

このプログラムは劇場をキャンプ場に見立て、上演時間の90分で高原の昼間、夕暮れ時、真の暗闇、さわやかな朝、突然の集中豪雨等のさまざまな天候の中で、飲み物を片手に音楽を聴いたり、一緒に踊ったり、テントの中でのんびりしたり、思い思いに音楽を楽しむことができる内容となっています。また、子どもだけでなく親も楽しめるように、会場への出入りや写真撮影も自由で、親の世代に人気のある個性的なミュージシャンによる限定ステージも行われます。

「子ども向け舞台作品は、未就学児入場不可や、入れても4歳くらいから、というプログラムが多いのが現状ですが、0歳児から、親子でのんびり楽しめる公演が少ないというニーズにお応えして、“夏フェス”をテーマに新規企画を立ち上げました。第1弾の今年は劇場が“キャンプ場”へと大変身しますが、ゆくゆくは毎年違ったシチュエーションをお楽しみいただけるシリーズ企画として、パッケージ化を目指しています」とプロデューサーの石井宏美さん。世代を問わず楽しむことができる新たな取り組みに、期待が寄せられます。

●横浜市　7月21日、22日、28日、29日
会問KAAT神奈川芸術劇場
Tel. 045-633-6500
http://www.kaat.jp/

●横浜市　8月4日～9月30日

Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018

3年に一度開催される日本最大級のダンスフェスティバル。3回目の今回はコンドルズの近藤良平、横浜市と姉妹都市を結ぶフランス・リヨン市のメゾン・ドゥ・ラ・ダンス／リヨン・ダンス・ビエンナーレ芸術監督ドミニク・エルヴュをディレクターに迎え、ジャンルや世代、国籍、ジェンダー、障がいの有無を超えてさまざまな人が楽しめる約200ものプログラムが行われる。近藤のディレクションによる市民参加プログラム「横浜ダンスパラダイス」では、会期中の週末に市民ダンサーとゲストダンサーが出演する観覧無料のダンスステージを展開。最終日の9月30日にはステージに参加したダンサーや観客がグランモール公園美術の広場に集結し、近藤振付のオリジナルダンスを皆で踊る大規模なフィナーレを実施。
会象の鼻パーク 特設ステージ、横浜赤レンガ倉庫1号館、KAAT神奈川芸術劇場ほか横浜市内全域
問横浜アーツフェスティバル実行委員会　Tel. 045-663-1365

●横浜市　8月7日～9日、11日

こども狂言ワークショップ～入門編～

小中学生を対象とした狂言の公演鑑賞と実技指導がセットになったワークショップ。狂言方大蔵流・山本則俊らの指導により、足の運びや扇の使い方など狂言の基礎を学ぶ。最終日に「人間国宝・山本東次郎先生の狂言の時間」を解説付きで鑑賞。希望者は来年1月から開催される「こども狂言ワークショップ～卒業編～」（有料）を受講の上、3月の「横浜こども狂言会」で成果を披露する。
会問横浜能楽堂
Tel. 045-263-3055

昨年の様子

●長野県佐久市　8月3日～5日

第3回児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル「キッズ・サーキットin SAKU 2018」

国内外の第一線で活躍する児童・親子向け舞台芸術カンパニーが一堂に会するフェスティバル。人形劇テント小屋ごと来日するチェコの人形劇団・アルファ劇場による『三銃士』、わらび座『セロ弾きのゴーシュ』、むすび座『ピノキオ』など、21団体による演劇・人形劇・音楽・サーカスなど23公演が市内8会場で行われる。
会佐久市コスモホール、佐久平交流センターほか
問キッズサーキット in 佐久実行委員会　Tel. 0267-82-3962

●岐阜県多治見市　7月28日

夏休み！こどもパーク

市内各施設・市民団体・関係団体が連携して行われる、子ども向け体験イベント。「子どものためのオーケストラテーマパーク」では、小中学生による合唱団が練習の成果を披露するほか、楽器や指揮者体験、舞台裏探検など鑑賞だけでなくオーケストラと公演を身近に感じるワークショップ、愛知室内オーケストラのコンサートを開催。また1日を通して公募による個人・団体により、遊びを通じて子どもたちの創造性や表現力が刺激される体験できるブースが出展される。
会問バロー文化ホール（多治見市文化会館）　Tel. 0572-23-2600

昨年の出展ブース（わくわくエリア）

●静岡市　7月1日～8月18日

SPACシアタースクール2018『十二夜』

学校ではふれる機会の少ない演劇の面白さ・奥深さを、地域の子どもたちとその保護者の方々に知ってもらうことを目的として、2007年にスタート。公募で集まった県内中学1年生～高校2年生の参加者が劇団SPACの俳優による指導の下、発声やスズキ・メソッド（前芸術総監督・鈴木忠志が考案した俳優訓練法）、楽器演奏などを通して「舞台に立つためのからだづ

昨年の発表公演『オフェリアと影の一座』
撮影：猪熊康夫

くり」を学び、成果披露としてSPAC版『十二夜』(演出：中野真希)を上演する。
会 静岡芸術劇場
問 静岡県舞台芸術センター(SPAC) Tel. 054-203-5730

●静岡県長泉町　8月10日
パイプオルガン解体ワークショップ
夏休みの自由課題研究などに活かしてもらおうと開催されるパイプオルガン講座。各地の巨大パイプオルガンなどの製作・メインテナンスに携わるフランス人オルガン製作者マテュー・ガルニエ氏を講師に迎え、小型オルガンを子どもたちの前で組み立てながら、音を出す仕組みや使われている素材など、知られざる仕組みを解説。組み立てられたオルガンは、オルガニストによって演奏が奏でられる。夜間には大人限定のワークショップも開講。
会問 長泉町文化センター・ベルフォーレ　Tel. 055-989-0001

●名古屋市　8月1日～25日
愛知県芸術劇場 ファミリー・プログラム 2018
夏休みに家族で“劇場の楽しさ”を体験してもらうことを目的に、県内市町村劇場と連携して開催。タスマニアを拠点に世界で公演しているオーストラリアの人形劇団「テラピン・パペットシアター」の代表作『小さな島とエヴァ』は、同劇場のほか県内7会場で上演されるのをはじめ、劇場スタッフと共に小ホールの秘密を探る「げきじょうたんけんツアー」、プロジェクト大山、捩子ぴじんらによるダンス、演劇のワークショップが行われる。
会問 愛知県芸術劇場
Tel. 052-971-5609

昨年の「げきじょうたんけんツアー」
©羽鳥直志

●愛知県長久手市　8月5日
おんぱく2018～ようこそ、夏の音楽バザールへ
およそ隔年で開催している文化の家全館を挙げて行う音楽イベント。毎回異なるテーマを設け、8回目となる今回はクラシック音楽の魅力を伝えることを目的に実施する。通常クラシックコンサートに入場することのできない0歳児から入場できるオーケストラコンサートをはじめ、指揮者体験や楽器体験などのアトラクションコーナーでは音楽の楽しさを全身で体感することができる。
会問 長久手市文化の家
Tel. 0561-61-3411

●京都市　8月14日、15日
プレイ！シアター in Summer
“気軽に遊べる劇場”として、子どもから大人まで劇場を満喫できる2日間。劇団ユリイカ百貨店による演劇や京都市交響楽団による0歳からのコンサート、康本雅子のナビゲートによるダンス・DJプログラム「COOL☆こどもディスコ」、前川國男設計による建物を解説する劇場ツアーをはじめ、各種ワークショップなど多彩な催しが行われる。
会問 ロームシアター京都
Tel. 075-771-6051

●京都市　7月22日～8月11日
夏休み芸術体験教室2018
小学生～高校生が日本の伝統音楽や伝統芸能を体験するプログラム。邦楽(箏・尺八)、日本舞踊、能楽(仕舞、笛・小鼓・大鼓・太鼓)を各教室ごとにじっくりと学び、最終日に成果を発表。能楽は近隣の大江能楽堂の本舞台で公演を行う。
会 京都芸術センター、大江能楽堂
問 京都市芸術文化協会
Tel. 075-213-1003

●大阪府羽曳野市　7月14日
LICはびきのオルガンゼミ それゆけ！オルガン探検隊「きいてみよう！ひいてみよう！ぼくもわたしもオルガンデビュー！」
演奏会や体験会のほか、物語やクイズを交えながら、パイプオルガンを楽しむプログラム。LICはびきのは、府内の公共施設では唯一パイプオルガンを設置したホールとして、普段触れる機会の少ない楽器であるオルガンの演奏会などを継続的に行い、多くの人に親しんでもらう機会を提供している。
会問 LICはびきの(羽曳野市立生活文化情報センター)
Tel. 072-950-5500

●神戸市　7月27日
神戸ジャズ物語2018～親子で楽しむジャズコンサート～
子どもたちに生のジャズ演奏に接する機会を設け、親と子どもがジャズを通してふれあう場を提供する。出演は関西のミュージシャンで構成されるビッグバンド「グローバル・ジャズ・オーケストラ」。ジャズにアレンジしたディズニーやジブリの曲を中心に、楽器の紹介や子どもたちも一緒にステージに上がっての演奏など、親子で楽しめるプログラムで構成される。
会 北神区民センター・ありまホール
問 神戸市民文化振興財団
Tel. 078-351-3597

昨年のコンサート

●兵庫県伊丹市 7月25日～29日
こどものための夏休みワークショップ『みんなでつくる鬼ごっこダンス～まてまてまてぇ～』
小学3～6年生に表現する楽しさを体感してもらう恒例のワークショップ。今年のテーマは“走る”。能の演目『舎利(しゃり)』に登場する、足の速い仏様“韋駄天”の話を基に、演劇とダンスで作品を創作する。講師は砂連尾理(ダンサー・振付家)と林慎一郎(劇作家・演出家／極東退屈道場)。8月11日・12日には、未就学児童を対象にした参加型演劇公演『かむじゆうのぼうけん』を開催。
会問 アイホール(伊丹市立演劇ホール)　Tel. 072-782-2000

●香川県高松市　8月1日～5日
演劇どっとこむ
演劇専攻コースのある四国学院大学との協働事業。“演劇を通して自分に出会う夏”をテーマに開催する、中学・高校生を対象にした演劇ワークショップ。7年目となる今年も、講師に舘そらみ(劇団ガレキの太鼓)を招き、さまざまな演劇体験により、表現力やコミュニケーション力などを養う。最終日のミニ発表会で成果を披露する。
会問 サンポートホール高松
Tel. 087-825-5010

●北九州市　7月29日～8月2日
夏休み！子どもの劇場体験2018
演劇を体験する、またはプロの仕事にふれることで、子どもの頃から劇場や舞台芸術に親しんでもらうことを目的としたワークショップ。「演劇体験」コースでは、地域の演劇人と一緒に演劇を体験し自由な発想と感性を育む。「職場体験」コースでは、劇場の表方・裏方の仕事を学び、実際に公演のフロント係にも挑戦する。ほかにもシアターサーカ

ス「マシーン・ドゥ・シルク」の鑑賞など、さまざまプログラムで劇場のおもしろさ伝える。
会問北九州芸術劇場
Tel. 093-562-2655

●宮崎県宮崎市　7月28日～8月19日
「Let's 和の音♪」
日本を代表する演奏家が集い、子どもたちに邦楽の楽しさを伝える夏休み恒例の邦楽体験プログラム。箏・三味線を基礎から学ぶ「はじめてのおけいこ」では、講師と子どもたちがこのプログラムのためにつくられた邦楽作品を合同で演奏する。また箏・三味線・笙・小鼓・笛の中から好きな楽器を選んでじっくり体験できる「かじってみよう!」ほか、最終日に行われる講師陣によるワンコインコンサートでは、開場中5つの楽器を自由に触ることができる。
会問メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）
Tel. 0985-28-3208

美術

●茨城県つくば市 7月21日、22日
夏休みアート・デイキャンプ2018＆アートたんけん隊
小・中・高校生を対象とした、筑波大学と連携した美術普及プログラム。実物大のダビデ像やニケ像などをモチーフに、さまざまな画材を使って思い思いに絵を描くことを楽しむ。同大の先生・学生たちから個別にアドバイスがもらえるほか、完成した作品はつくば美術館に展示される。絵を描き終わったあとは、大学院生らのナビゲートで、学内を探険しながらアート作品を鑑賞する。
会筑波大学　大石膏室
問つくば文化振興財団
Tel. 029-856-7007

●埼玉県越谷市 7月24日～29日
夏休みこどもワークショップ「未来アート工房!5」～みんなの商店街をつくろう～
“街づくり”を主なテーマに置いた夏期アートワークショップ。5回目の今年は、過去4回（「家のデザイン」や「ロボット」「森」「学校」づくり）を経て、5年間のワークショップのまとめとして、「みんなの商店街をつくろう」をテーマに、公募の30人の小学生が3日間“モノヅクリ”による自由な表現を楽しむ。作品は後半3日間展示される。講師は矢生秀仁（こども環境デザイン研究所代表）。ほかにも夏休み企画として、コンドルズ・CAT-A-TACの藤田善宏と小学生がオリジナルダンスを創作する「みんなでステージを創ろう!」も開催（6月30日～8月5日／全10回）。
会問サンシティ越谷市民ホール
Tel. 048-985-1113

作品づくりの様子（未来アート工房!4より）

●新潟県見附市 8月17日～25日
第3回わくわく体験塾展覧会
市内各所で行われる小学生夏休み講座「わくわく体験塾」のギャラリー企画講座で制作した作品の展覧会。約100人の小学生作品を展示する。市内のアーティストや教育関係者の指導で子どもたちが創作した写真やスケッチ、染色やクラフトなどの各講座作品を紹介する。
会問ギャラリーみつけ
Tel. 0258-84-7755

●山口県山口市　7月21日～10月28日
コロガル公園コモンズ
メディアテクノロジーを駆使した遊び場「コロガル公園」の2年ぶりとなる最新版。特徴的な形状の木の床面に随所に埋め込まれたスピーカーや映像などが遊びを発想するための「種」として機能する。シリーズを通して開催してきた人気イベント「子どもあそびばミーティング」も開催。子どもたちがYCAMスタッフと共にコロガル公園コモンズに追加したい機能を議論し、採用されたアイデアは、後日新しい機能として会場に追加される。
会問山口情報芸術センター［YCAM］　Tel. 083-901-2222

総合

●神奈川県逗子市　8月5日
逗子文化プラザホールオープンデー2018
ホールのことをよく知ってもらうイベントとして好評を博し、継続しているホール開放イベント。0歳から楽しめる若手プロ吹奏楽団ブリッツフィルハーモニックウインズのコンサートや女性のみにより伝承される人形劇団ひとみ座の公演＆ワークショップをはじめ、ものづくりワークショップやマルシェなど、親子で楽しめるバラエティに富んだプログラムが館内各所で行われる。
会問逗子文化プラザホール
Tel. 046-870-6622

●石川県金沢市　8月25日、26日
金沢市民芸術村 夏のおばけ村
ドラマ、ミュージック、アートの3工房の市民ディレクターが企画・立案する芸術村自主企画「アクションプラン」の一環で行われる夏休みプログラム。ドラマ工房では俳優たちがそれぞれ持ち寄った“こわい噺”を生で語り、ミュージック工房ではファンタジーでちょっと怖いケルト童話とフィドルをフィーチャした演奏などを披露、アート工房ではおばけのお面づくりなどをレクチャー。それぞれ工房の特徴を生かしたプログラムにより“おばけ”の世界へ誘う。
会問金沢市民芸術村
Tel. 076-265-8300

●静岡市、浜松市、沼津市など9市　7月21日～11月18日（特別講座：7月21日、8月4日、18日）
ふじのくに子ども芸術大学2018
2011年にスタートした県内の小中学生を対象としたワークショッププログラム。子どもたちが優れた文化芸術に出合い、身近に親しむ機会を提供する。学長は作曲家の三枝成彰。期間中は県内各地で文化団体等の企画によるワークショップ・講座が行われ、夏休み期間中に行われる「特別講座」では、日比野克彦や仲道郁代、安珠、ひびのこづえ、三ツ橋敬子ら各ジャンルのトップアーティスト、クリエーターたちが講師を務める。
会グランシップ、プラサヴェルデ、クリエート浜松ほか
問ふじのくに子ども芸術大学実行委員会（静岡県文化政策課内）
Tel. 054-221-3340

●三重県鈴鹿市　7月28日
こどもフェスティバル
さまざまな体験を1日で楽しめる子どもが主役のフェスティバル。小学生による「こどもスタッフ」が事前打ち合わせから当日のイベント運営にまで参加、フェスティバルを盛り上げる。親チーム、こどもチームに分かれてホールを探検するツアーをはじめ、詩・短歌・俳句・川柳を学ぶ「書き方講座」など各種ワークショップや講座、展示を全館で実施。
会鈴鹿市文化会館
問鈴鹿市文化振興事業団
Tel. 059-384-7000

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　高澤・三田

●2018年9月号情報締切
8月1日(水)

●2018年9月号掲載対象情報
2018年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●北海道鹿追町
神田日勝記念美術館
〒081-0292　河東郡鹿追町東町3-2
Tel. 0156-66-1555　川岸真由子
http://kandanissho.com/

開館25周年記念展―《室内風景》を巡る、これまでとこれから
鹿追町ゆかりの画家・神田日勝の画業の集大成とされる《室内風景》を巡って、室内や家屋を描いた作品の系譜に着目し、作品誕生への軌跡や影響関係をたどる。長年の調査で存在が判明し、同作の制作プロセスに関して重要な手がかりを示す海老原暎の作品《1969年3月30日》(1969年)も初めてともに公開される。
[日程]6月12日～9月2日
[会場]神田日勝記念美術館

●宮城県加美町
中新田バッハホール
〒981-4262　加美郡加美町字一本杉101
Tel. 0229-63-7367　星・渋谷
http://www.town.kami.miyagi.jp/events/index.cfm/detail.11.11318.html

バッハホール管弦楽団 第5回定期演奏会
バッハホールを拠点として活動する同ホール管弦楽団は、中学生から60歳代まで幅広い世代の市民が参加し、練習を重ねている。第5回となる今回の定期演奏会は加美町合併15周年記念事業としてハンス・ペーター・シュー(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者)を迎え、華やかに開催される。
[日程]7月8日
[会場]中新田バッハホール

●山形県米沢市
米沢市上杉博物館
〒992-0052　米沢市丸の内1-2-1
Tel. 0238-26-8001　花田美穂
http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/top.htm

後藤克芳の世界　アートがアートでなくなる瞬間？！
米沢市出身のポップアート作家・後藤克芳の回顧展。約130点の作品を収蔵している当館では14年ぶりの開催。故郷米沢市田沢で親しんだ「木」をすべての作品に用いていた制作スタイルなど、ゆかりの作家としての紹介とともに、代表作を中心に習作などもテーマごとに展示することで後藤の芸術の根幹に迫る。
[日程]6月2日～7月22日
[会場]米沢市上杉博物館

関東

●さいたま市
埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5506　阿部千佳子
https://www.saf.or.jp/arthall/

光の庭プロムナード・コンサート100回記念スペシャル
ホールにある小型パイプオルガンの演奏をお話とともに楽しむミニコンサート。入場無料、予約不要で気軽に本格的な音楽にふれることができる。100回目の今回は、シリーズの構成を手がけるオルガン奏者・大塚直哉と若手声楽家たちによる合唱アンサンブル。
[日程]6月30日
[会場]彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県松戸市
松戸市教育委員会
〒271-8588　松戸市根本356
Tel. 047-366-7462　田中典子
https://www.city.matsudo.chiba.jp/miryoku/kankoumiryokubunka/rekisi-bunka/dezitarubizyutu_top/

松戸市制施行75周年記念展 松戸ゆかりの美術展―その潜在力―
戦後20年間、松戸市の旧陸軍工兵学校にあった千葉大学工学部と、その前身で、本格的なデザイナー養成機関として創設された東京高等工芸学校の関係作家のコレクションを公開。併せて松戸市在住の写真家としては最高齢の及川修次の作品を紹介し、松戸の歴史から生まれた貴重な資源を伝える。
[日程]8月4日～9月2日
[会場]松戸市立博物館

●東京都葛飾区
かつしかシンフォニーヒルズ
〒124-0012　葛飾区立石6-33-1
Tel. 03-5670-2222　岡橋弘道
http://www.k-mil.gr.jp/

第3回かつしか文学賞『天のこと』
葛飾区の文化芸術創造事業として、葛飾を舞台にそこで暮らす人々の心のふれあいを題材とする小説を「かつしか文学賞」として公募。今回で3回目となる大賞作品をシライケイタの脚本と佐藤B作の演出により舞台化。オーディションで選ばれた区民・一般キャスト29人が半年間に及ぶ稽古を経て、舞台発表を行う。
[日程]7月28日、29日
[会場]かめありリリオホール

●東京都世田谷区
せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004　世田谷区太子堂4-1-1(キャロットタワー内)
Tel. 03-5432-1543　天野典子
http://setagaya-ldc.net/

折紙生活展―もしも折紙が日常に折り込まれたら？
新進気鋭のグループ「折紙創作集団スクエア」が、日常にも取り入れられる、折紙遊びを提案する展覧会。書斎やトイレ、リビングを模した空間の中に、箸袋、紙コップ、トイレットペーパーの端が折紙になっている作品や、超絶技巧の折紙作品な

ど、約80点を展示。生活の細部が楽しくなるような折紙文化を伝える。
[日程]6月16日～7月16日
[会場]生活工房ギャラリー

トイレットペーパーで折ったトイレ

●東京都町田市
町田市立国際版画美術館
〒194-0013　町田市原町田4-28-1
Tel. 042-726-2771　藤村拓也
http://hanga-museum.jp/

インプリントまちだ展2018 荒木珠奈　記憶の繭を紡ぐ

東京2020大会にむけて、4年間にわたり開催する展覧会シリーズの第2弾。今回は版画を中心に幅広い創作活動を行ってきたアーティスト・荒木珠奈の個展。銅版画の技法を身に付けたメキシコ留学時の初期作品など4章構成で叙情性豊かな作品群を紹介。町田の記憶としての「養蚕」に着想を得て創作した新作インスタレーションも公開される。
[日程]6月30日～9月2日
[会場]町田市立国際版画美術館

●川崎市
川崎市市民ミュージアム
〒211-0052　川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
Tel. 044-754-4500　永藤友美
http://www.kawasaki-museum.jp/

かこさとしのひみつ展―だるまちゃんとさがしにいこう―

『だるまちゃんとてんぐちゃん』で知られる絵本作家かこさとしの半世紀以上にわたる創作活動を概観し、その秘密に迫る。創作の原点となった川崎における子どもたちとの出会いから紹介し、未来の子どもたちに向けて新たに発信する。絵本化していない作品が見られる「幻灯上映会」など関連イベントも有り。
[日程]7月7日～9月9日
[会場]川崎市市民ミュージアム

北陸・中部

●山梨県身延町
身延町教育委員会
〒409-2992　南巨摩郡身延町常葉1025
Tel. 0556-20-3017　深沢・塩谷
https://www.town.minobu.lg.jp/

生誕三百年　木喰展～故郷に還る、微笑み。～

身延町古関丸畑出身の僧侶・木喰は、日本廻国の際訪れた先に木彫りの仏像を奉納している。その像の多くが、独特の微笑みをたたえているのが特徴。木喰の生誕300年を記念し、代表作の四国堂仏を公開するなど、全国に現存する720体の木像のうち80体が木喰の故郷に集い一堂に公開される。
[日程]7月14日～10月21日
[会場]身延町なかとみ現代工芸美術館

●山梨県甲府市
コラニー文化ホール
〒400-0033　甲府市寿町26-1
Tel. 055-228-9131　尾沢明彦
http://www.yamanashi-kbh.jp

文化の湖プロジェクト「ヤマガヒ～とうとう～」

甲府に伝わる日本最古の人形芝居「天津司の舞」をモチーフにしたオリジナルの生演奏創作音楽劇。舞が伝える甲府盆地の湖水伝説を演技、舞踊、美術、邦楽、洋楽といった多彩な要素に置き換え、現代の演劇に再構築する。上演後、特別プログラムとして「天津司の舞」の実演も行われる。
[日程]7月7日、8日
[会場]コラニー文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

●長野県東御市
東御市梅野記念絵画館
〒389-0406　東御市八重原935-1　芸術むら公園
Tel. 0268-61-6161　佐藤雅子
http://www.umenokinen.com/

開館20周年記念展　美に焦がれて 蒐集もまた芸術である 洲之内 徹・大川 栄二・梅野 隆の眼展

美術作品の収集を富裕層が担っていた時代、無名芸術家の作品であっても徹底した審美眼により見定め、検証し、発掘した、庶民コレクターの元となった洲之内徹、大川栄二、梅野隆。3人が蒐集したコレクションを展示するとともに、日本中に美術愛好家を育て、広めたことの多大な貢献を伝える。
[日程]7月1日～9月24日
[会場]東御市梅野記念絵画館

●浜松市
浜松市文化振興財団
〒430-0916　浜松市中区早馬町2-1
Tel. 053-453-5311　村木啓純
http://www.hcf.or.jp/facilities/create/

クリエート浜松開館 30周年記念事業シンセティック・オペラ『何故・だから～ほどける糸のゆくえ～』

ギャラリー設備が整っているクリエート浜松が開館30周年を記念して会館の歴史にちなみアート作品を主体とした舞台を企画。ステージ上の美術作品から導き出されたストーリーに音楽を乗せ上演されるもので、エネルギーに満ちたさまざまな美術作品と、第一線で活躍するソリストが演じるオペラがシンセサイズ(融合)される。
[日程]7月14日
[会場]クリエート浜松

●愛知県知立市
知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)
〒472-0026　知立市上重原町間瀬口116
Tel. 0566-83-8100　堀川克磨
http://www.patio-chiryu.com/

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」「知立の山車文楽とからくり」保存会公演

知立まつりで奉納される山車文楽とからくり人形芝居を本番のお祭りさながらに上演する。開館以来毎年継続している公演で、お祭りとは異なるホール空間での上演により、山車の上で行われる文楽やからくり人形芝居に集中して鑑賞ができるほか、解説付きで上演される。
[日程]7月1日
[会場]知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)

九州・沖縄

●福岡県岡垣町
岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団
〒811-4233　遠賀郡岡垣町野間1-2-1
Tel. 093-282-1515　平井健
http://sanryai.info/new/

～ピアノがくれる素敵な贈り物～ぴあのリレーマラソン16

一般公募による90組の出演者が、クラシックやポピュラー、アニメソングなどさまざまなジャンルのピアノ曲を発表するコンサート。リレーのバトンのように演奏後に次の演奏者から花束が贈られるのも特徴。3部構成合計5時間の演奏会で、各部の最後にはゲストとしてプロの音楽家が登場し、演奏会に花を添える。
[日程]7月15日
[会場]岡垣サンリーアイ

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2018」参加者募集

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介するとともに、公共ホールや自治体の皆さんが事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的として、7月31日と8月1日の2日間、東京芸術劇場で「地域創造フェスティバル2018」を開催します。おんかつやダン活など地域創造の特色ある事業を直接知っていただく貴重な機会ですし、アーティストや他の地域の公共ホール等とのネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただける絶好の機会です。今年も、全国の公共ホールや自治体から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

※事前申し込み制です。詳細は左記要領をご覧ください。 **募集締切：7月23日（月）必着**

●「地域創造フェスティバル2018」
［日程］7月31日（火）、8月1日（水）
［会場］東京芸術劇場（東京都豊島区西池袋1-8-1）入場無料
［申し込み方法］当財団ウェブサイトにある「参加申込フォーム」からお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/
［問い合わせ］芸術環境部
勝田・山居・岩藤・梅田
Tel. 03-5573-4093

地域創造フェスティバルのみどころ

◎シンポジウム

「文化芸術基本法」の成立から1年、平成30年3月に閣議決定した「文化芸術推進基本計画」には、今後の文化芸術政策が目指すべき目標のひとつとして「地域の文化芸術を推進するプラットフォーム」の形成が掲げられています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、地域の文化行政と公立文化施設がこの機会を活かし、どのように協働していくべきか、東京藝術大学の熊倉純子教授を迎え基調講演とシンポジウムを行います。

◎公共ホール音楽活性化支援事業（おんかつ支援）

「おんかつ支援プレゼンテーション」では、おんかつ支援の登録アーティストたちが、音楽との新しい出会いを地域へ届けるため工夫を凝らした演奏とトークを、一組30分の持ち時間の中で披露します。

◎おんかつシンポジウム

アウトリーチの考え方が広く普及する中、その方法は多様化するとともに、時代や社会の変化に伴う進化も求められています。おんかつ事業がスタートし20年を迎えた今、これまでのアウトリーチ活動のあり方について改めて見つめ直し、これからのアウトリーチのあるべき姿を考えます。

◎公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）

アーティストプレゼンテーションとセミナーを開催します。プレゼンテーションでは、平成31年度ダン活登録アーティストによるダンスパフォーマンスや、ワークショップのデモンストレーションを実施します。セミナーでは、ダンスによる多様な活動事例を紹介し、ダンスを観る楽しさや、ダンスと地域を繋げる面白さなど、ダンスの可能性を探ります。

「地域創造フェスティバル2018」プログラム

＊詳しいプログラム内容やタイムスケジュールは同封チラシをご覧ください。
＊プレゼンテーション出演アーティストは変更になる場合があります。

7月31日（火）	8月1日（水）
●シンポジウム「2020の先にあるもの～文化芸術基本法から1年、今、地域が取り組むべきこと～」 ［基調講演］「地域の文化芸術政策とプラットフォーム」熊倉純子 ［モデレーター］吉本光宏　［パネリスト］熊倉純子、真田弘彦、高橋麻衣	●地域創造助成要綱説明会 ●公立美術館活性化事業説明会
●ダン活セミナー「ダンスと地域をつなぐ面白さ、ダンスの可能性に迫る」 ［講師］大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀	●リージョナルシアター事業説明会
●ダン活プレゼンテーション ［アーティスト］中村蓉、鈴木ユキオ、田畑真希、東野祥子、長井江里奈、田村一行、北尾亘、セレノグラフィカ	●おんかつシンポジウム「アウトリーチの忘れ物」 ［モデレーター］津村卓 ［パネリスト］吉本光宏、大月ヒロ子、小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
●おんかつ支援プレゼンテーション ［ピアノ］新崎誠実、佐々木京子、泊真美子、中川賢一　［ヴァイオリン］北島佳奈、松本蘭、早稲田桜子　［チェロ］海野幹雄、加藤文枝、長谷部一郎　［フルート］森岡有裕子　［サクソフォン］田村真寛　［トランペット］高見信行　［トロンボーン］加藤直明　［ソプラノ］乗松恵美、廣田美穂　［メゾ・ソプラノ］菅家奈津子　［バリトン］ヴィタリ・ユシュマノフ　［マリンバ］大熊理津子、塚越慎子　［パーカッション&ボイス］野尻小矢佳　［クラシック・ギター］松尾俊介　［リコーダー］江崎浩司　［クラリネット&ピアノ］デュオ・レゾネ　［サクソフォン四重奏］Quartet SPIRITUS　［木管五重奏］Quintet H　［ブラスバンド］BLACK BOTTOM BRASS BAND	●おんかつ支援プレゼンテーション ［ピアノ］新居由佳梨、岩崎洵奈、久保田葉子、白石光隆、田村緑　［ヴァイオリン］礒絵里子、大森潤子、坂口昌優、高橋和歌　［チェロ］奥田なな子　［フルート］荒川洋、吉岡次郎　［ホルン］小川正毅　［テューバ］喜名雅　［テノール］黒田晋也、中井亮一　［バリトン］吉川健一　［マリンバ］浜まゆみ　［打楽器］前田啓太　［箏］片岡リサ　［ピアノデュオ］デュエットゥ かなえ&ゆかり、ピアノデュオ ドゥオール　［ピアノ&チェロ］Duo Yamaguchi　［箏デュオ］Dual KOTO×KOTO　［ピアノトリオ］ピアノトリオ・ミュゼ　［サクソフォン四重奏］Quatuor B　［金管五重奏］Buzz Five

財団からのお知らせ

●平成30年度「邦楽地域活性化事業」全体研修会参加者募集

平成30年度邦楽地域活性化事業では、広島県広島市の広島県民文化センターを会場にて「邦楽の魅力と伝え方」と題し、邦楽によるアウトリーチやワークショップの可能性についてのレクチャーや、前回参加演奏家によるアウトリーチデモンストレーションなどを行う研修会を、8月22日(水)に開催します。

この研修会は、事業実施者、アウトリーチ先の学校関係者などを対象に、本事業の趣旨や流れを理解・共有していただくために実施していますが、本年度事業関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや、文化行政ご担当者等の参加を募集します。邦楽事業に関心のある方は、この機会にぜひご参加ください。事前登録制となりますので、参加を希望される方は、(公財)ひろしま文化振興財団宛にお申し込みください。

◎邦楽地域活性化事業

都道府県・政令指定都市のホールが主体となって、市区町村ホールとの連携により学校アウトリーチやワークショップ、コンサート等を実施し、邦楽分野のアウトリーチ手法や事業展開のノウハウの蓄積を目指すのもので、今年度は(公財)ひろしま文化振興財団が、広島県内3市(廿日市市、東広島市、福山市)で実施します。

平成29年度邦楽地域活性化事業―熊本市・小学校でのアウトリーチ(左から:本間貴士、多田彩子、澄川武史)

●平成30年度邦楽地域活性化事業
全体研修会
[日時]8月22日(水)
13:30～17:00
[会場]広島県民文化センター　サテライトキャンパスひろしま
広島県広島市中区大手町1-5-3
[内容]邦楽分野のアウトリーチについてのレクチャー、演奏家によるアウトリーチデモンストレーション・質疑応答、本事業コーディネーターによる座談会など(予定)
[参加申し込み方法]
①件名:邦楽研修会
②所属団体(施設)名
③氏名
④電話番号
をご記入の上、メールでお申し込みください。
宛先:hirobun@h-bunka.or.jp
※定員(30名)に達し次第募集を締め切らせていただきます。
[担当](公財)ひろしま文化振興財団
高井　Tel. 082-249-8385

●邦楽地域活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　仕田
Tel. 03-5573-4078

●地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ
総務部　川口
Tel. 03-5573-4164
taishou@jafra.or.jp

平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」へのご応募をお待ちしています!

●趣旨

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設の活動のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。

●表彰対象(審査の主なポイント)

- 開館から概ね5年を経過している(廃校施設等の転用施設を含む)
- 地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績を挙げている(例えば、先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいる)
- 条例により公の施設として設置および管理されている

●これまでの受賞施設等

平成16年度から29年度までの14年間で、110施設が地域創造大賞に輝きました。受賞施設は、どれも公立文化施設の運営を通じて地域に活力をもたらした素晴らしい施設ばかりです。また、設置主体は、いわゆる小規模町村から政令指定都市・都道府県まで、広範にわたっています。例えば、「坂本善三美術館(H27受賞・熊本県小国町)」は子どもたち・住民・アーティストの交流を意欲的に行うなど、地域コミュニティの絆を育む場としての長年にわたる尽力が高い評価を受けましたし、「大田区民プラザ(H29受賞・東京都大田区)」は、地域が一体となって劇場版おばけ屋敷の制作に取り組むなど、文化による新しい絆の育成に向けた尽力が高い評価を受けました。

●実施要領・応募書

当財団のウェブサイト「様式箱」→「地域創造対象(総務大臣賞)」からダウンロードできます。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

●応募方法(応募書の提出先)

都道府県・政令指定都市は、当財団に直接応募書を提出してください。また、市区町村は、当財団のウェブサイトに掲載した都道府県の担当課を経由して、応募書を提出してください。

募集締切:7月23日(月)

●平成30年度「ステージラボ『公立ホール・劇場マネージャーコース』」&「文化政策幹部セミナー」参加者募集

東京・赤坂の地域創造事務局を会場に「ステージラボ『公立ホール・劇場マネージャーコース』」と「文化政策幹部セミナー」を同時開催します。各コースともに、コーディネーターの他、テーマに沿った多彩な方々を講師に迎え、少人数のゼミ形式で行います。毎年、全国各地から参加者が集まり、双方向の活発な議論が行われるのが研修の特徴です。詳細や応募方法は、同封の募集要領も併せてご覧ください。

募集締切：8月5日(日)必着

◎ステージラボ「公立ホール・劇場マネージャーコース」

公立ホールや劇場等の管理職等幹部職員の方を対象に、ホール等の運営に役立つレクチャーや、グループワークを実施します。

今年度のテーマは、「地域資源を活かした文化事業」。文化政策や文化施設を取り巻く環境が変化している中で、地域資源を活かしたさまざまな事業例を参考に、これからの施設運営のあり方について構想していきます。

[日程]10月16日(火)～18日(木)
[コーディネーター]真田弘彦(新潟市文化スポーツ部政策監、りゅーとぴあ副支配人)

◎文化政策幹部セミナー

地方公共団体における文化政策担当の幹部職員や文化事業担当職員が対象です。文化政策の観点からレクチャーやグループディスカッションを行います。

今年度のテーマは、「公立文化施設の管理運営」です。平成15年の地方自治法改正によって多くの施設に導入されている指定管理者制度や、今後の課題となりつつある施設の老朽化や少子高齢化社会における施設運営の展望について検討するための契機とします。

[日程]10月17日(水)、18日(木)
[コーディネーター]垣内恵美子(国立大学法人政策研究大学院大学教授(文化政策))

●平成31年度「リージョナルシアター事業」参加団体募集

演出家や俳優(以下、派遣アーティスト)を公共ホールに最大3回派遣し、公共ホールとともに演劇の手法を使った参加体験型プログラム(以下、ワークショップ)を企画・実施する「リージョナルシアター事業」の参加団体を募集します。

この事業では主に、学校等の施設を訪れて子どもたち等を対象にワークショップを行うアウトリーチや、ホール等で多様な参加者に応じたワークショップを実施します。地域のニーズやホールの目指す方向性に合わせてプログラムを自由に企画することができ、演劇の表現者がワークショップを行うことで、各地域の課題に取り組むことが可能になります。また公共ホール等の企画・制作能力の向上、ホールの活性化も期待できます。

これまでの事業では、小中学校の授業内でのアウトリーチや、市民を対象に表現することの楽しさを体験したり、地域の魅力を演劇の手法で再発見する公募型ワークショップ、行政職員や教員の研修として行うワークショップなど、プログラムは多岐にわたっています。

各地域での事業実施前には、参加団体と派遣アーティストが一堂に会した研修会を実施します。過去の事例紹介やワークショップ体験、事業実施に向けた打ち合わせを行いながら、各地域の課題や展望を共有していきます。演劇を使った新しい取り組みへの挑戦や、派遣アーティストからの新しい視点を活用したいというホールの皆様のご応募をお待ちしております。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

http://www.jafra.or.jp/j/guide/independent/play05/index.php

募集締切：8月24日(金)必着

●平成30年度「ステージラボ『公立ホール・劇場マネージャーコース』」、「文化政策幹部セミナー」実施要項・申込書類は、当財団のウェブサイト「様式箱」→「ステージラボ」「文化政策幹部セミナー」からダウンロードの上、メールでお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/
宛先：kensyu@jafra.or.jp
[申し込み・問い合わせ]
芸術環境部　高澤・三田
Tel. 03-5573-4066

●平成31年度リージョナルシアター事業
◎派遣アーティスト
多田淳之介(演出家・俳優、東京デスロック主宰)
田上豊(劇作家・演出家、田上パル主宰)
有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)
福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)
ごまのはえ(劇作家・演出家・俳優、ニットキャップシアター代表)
◎問い合わせ
芸術環境部　藤原・水上・梅田
Tel. 03-5573-4124
※参加申込書は、当財団のウェブサイト内の「様式箱」→「リージョナルシアター事業」からダウンロードできます。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

財団からのお知らせ

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のウェブサイト
http://www.jafra.or.jp
→「様式箱」よりダウンロードできます。

◎[Ⅰ]「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当者会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

●平成31・32年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、平成31・32年度に実施される事業の参加館を募集します。

募集締切：平成30年11月30日(金)

[Ⅰ]平成31年度準備・32年度開催「市町村立美術館活性化事業」

この事業は、地域創造が提示する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。

今回、平成32年度開催の共同巡回展として、「瀬戸市美術館・瀬戸蔵ミュージアム所蔵　せとものの技と美」展(仮称)の参加館を募集します。

愛知県瀬戸市は、「せともの(瀬戸物)」という言葉が、やきもの全般を示すように、日本を代表する陶都です。瀬戸では千年以上前の平安時代からやきものづくりが始まり、その生産は現在まで連綿と続いています。生産されているものは、各時代の要求に応えるように変化し、当時の生活や文化を表しています。これは日本の文化史を表現していると言っても過言ではありません。

この瀬戸市には、瀬戸の歴史や芸術を紹介する施設として、瀬戸市美術館・瀬戸蔵ミュージアムがあります。瀬戸市美術館では、北川民次・藤井達吉等の瀬戸市ゆかりの作家の作品を中心に1,000点を超える収蔵品があります。そして瀬戸蔵ミュージアムでは、瀬戸の歴史的な陶磁器作品とともに窯業関連の生産道具等1万点以上の作品を収蔵しています。その中の3,943点が「瀬戸の陶磁器の生産用具及び製品」として国の重要有形民俗文化財に指定されています。

日本のやきものづくりをリードしてきた瀬戸のやきものやその関連作品を通して、日本文化を見直すきっかけとなる企画が可能だと考えられます。また巡回展実施年は「東京オリンピック・パラリンピック」の開催年であることから、日本文化をPRする企画としても期待できます。また日本各地のやきもの産地や近隣地域との関わりの拡がりに繋げることもできると思います。

この事業では、参加館による実行委員会を結成し、平成32年度に巡回展を開催するほか、準備年度事業として、31年度から学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと、企画の具体化や調査研究、制作実務を分

◎市美活のすすめ　瀬戸市美術館館長　服部文孝氏

瀬戸市が市町村立美術館活性化事業(以下、市美活)に初めて参加したのは平成19年に開催された「北大路魯山人」展からです。それまでは単館での企画を中心に展覧会を実施していましたが、市美活の事業で初めて他の館の学芸員と共同作業することにより、自館では得られない多くの経験や知識を得ることができました。市町村立美術館における学芸員は数少ないことが多いため、学芸的スキルの向上を自分自身で頑張らなくてはならない状況があると思います。このスキルの向上のためにも、この市美活の事業は活用できると思いました。また市美活の事務局館も経験させていただいたことによって、共同で展覧会を企画・実施する楽しみや苦しみも経験させてもらいました。

この市美活の良い所は、通常出会うことがない館の学芸員と出会い、そして一つの目的に向かって一緒に仕事ができるということだと思います。このことにより、新たなネットワークの構築ができるとともに、さまざまなノウハウの習得にも繋がりました。

今回の「せともの技と美」展の企画は、さまざまな切り口での内容が考えられると思います。参加館で企画内容を検討し、加えて陶芸作品の取り扱い方を学べるきっかけにしていただけたらと思っています。

第18回共同巡回展「小杉放菴記念日光美術館所蔵絵画で国立公園めぐり―巨匠が描いた日本の自然」作品展示作業風景

染付花鳥図獅子鈕蓋付大飾壺
1876年　瀬戸市指定文化財

灰釉菊印花文四耳壺
13世紀末期～14世紀初期

アン王女　テーケー名古屋人形製陶株式会社　1991年

担して進めます。

地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

[Ⅱ-①] 平成31年度準備・32年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業（2か年プログラム）」
[Ⅱ-②] 平成31年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業（単年度プログラム）」

3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、平成31年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、32年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2000万円を上限に助成します（なお、開催年度助成金については、決定額の50％までの前金払い請求が可能です）。

「単年度プログラム」は、平成31年度に開催される共同巡回展について、A.作品借用・展示関連経費への助成と、B.カタログ作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、A.については500万円、B.については300万円を上限に助成します。

[Ⅲ] 平成31年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による、「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。地域創造は学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成するほか、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

[Ⅳ] 平成31年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会（異なる展覧会も可）に関連し、各館の展示内容やテーマ（作家、素材、技法、様式、モチーフなど）を基に自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

◎[Ⅱ-①]「公立美術館共同巡回展開催助成事業（2か年プログラム）」申請方法

- 準備年度：各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください（各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です）。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
- 開催年度：準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

◎[Ⅱ-②]「公立美術館共同巡回展開催助成事業（単年度プログラム）」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください（各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です）。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

◎[Ⅲ]「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および[Ⅳ]「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください（指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要です）。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

事業名		対象となる美術館（＊1）	申請について	助成措置		
				助成率（＊2）	上限額	助成期間
[Ⅰ]	市町村立美術館活性化事業	市区町村（政令指定都市を除く）の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：10/10 開催年度：2/3	準備年度：100万円 開催年度：1,200万円	2年間
[Ⅱ-①]	公立美術館共同巡回展開催助成事業（2か年プログラム）	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請（代表館が取りまとめる） ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度：2/3 開催年度：2/3	準備年度：150万円 開催年度：2,000万円	
[Ⅱ-②]	公立美術館共同巡回展開催助成事業（単年度プログラム）		3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請（代表館が取りまとめる）	2/3	作品借用・展示関連：500万円 カタログ作成関連：300万円	1年間
[Ⅲ]	公立美術館共同巡回展企画支援事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請（代表館が取りまとめる）	10/10	100万円	
[Ⅳ]	公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請（代表館が取りまとめる）	10/10	100万円	

＊1　公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。
＊2　[Ⅰ]の開催年度および[Ⅱ]については、対象経費の合計額から収入を控除した額の助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

さいたま市

プラザノース

「ノースであそぼう! あーとひろばの日2018」

上：「わっしょいパレード」
下：ものづくり体験ブースの様子

●「ノースであそぼう! あーとひろばの日2018」
[会期] 2018年5月12日～20日
[会場] さいたま市プラザノースほか

●さいたま市プラザノース
[開館] 2008年5月1日
[管理運営] プラザノースマネジメント株式会社(鹿島建設(株)を筆頭とする12社による特別目的会社)
[施設概要] 地上3階建(延べ床面積約1万9,845m²)／北区役所、北図書館、コミュニティ機能(セミナールーム7、キッチンスタジオ、和室4、多目的ルーム、書斎5)、ホール機能(ホール403席、リハーサル室3、音楽スタジオ3)、芸術創造・ユーモア機能(ノースギャラリー8、各種アトリエ、交流スタジオ)など
※区役所と図書館を除き、特別目的会社を構成する(株)JTBコミュニケーションデザインが2023年まで市の要求水準書に則って貸館・事業業務を運営。

＊1 さいたま市は2001年に浦和市・大宮市・与野市が合併。03年に政令指定都市に移行(05年に岩槻市編入)。人口約129万人・10区。

＊2 ユーモアにちなんだ事業として、「国際漫画フェスティバル」「ユーモアフォトコンテスト」「ユーモアの世界(落語や講座など)」を実施。

＊3 総合的かつ持続的な文化芸術の振興により、市民等がいきいきと暮らせる活力ある都市としてのイメージを確立する指針として2012年に施行。15年には文化芸術都市創造基金を創設。重点プロジェクトのひとつが「さいたトリエンナーレ(さいたま国際芸術祭に改称)」。

北区役所、北図書館および市民文化活動支援施設を集約したさいたま市(＊1)のプラザノース(以下、ノース)が10周年を迎えた。この施設は北区の地域拠点としてPFI方式によって整備されたもの。その特徴となっているのが、PFI事業者が設計段階から関わり、「コミュニティ機能」「芸術創造・ユーモア機能」のために提案した多彩なアトリエなどを活用した体験講座で、年間約120件(単発講座、連続講座など)も実施されている。5月20日、PFI施設と集約型施設の現場を取材するため、市民参加イベント「ノースであそぼう! あーとひろばの日」を訪ねた。

●

これは2012年にスタートし、今年で7回目。電動ろくろや糸のこなどを体験するオープンアトリエ、市民文化団体や講師によるドラム、ウクレレ、キッズダンス、ヨガなどのワークショップ、フラワーアレンジメントやクラフトなどのものづくり体験ブース、若手美術家による展示など、週末を中心に多彩な催しが行われた。

取材当日には、メインイベントとしてブラック・ボトム・ブラス・バンド(以下、BBBB)による1日音楽体験を実施。BBBBと植竹中学校吹奏楽部と飛び入り参加者が隣接するショッピングモールで野外演奏した後、みんな一緒にノースに向かってパレード。ホールコンサートは、演奏に誘われて入場した家族で大盛況だった。

施設長の関口史(ふみ)さんは、「ノースらしいアートを主体としたイベントをという市の要望を受け、予約なく誰もが当日来て参加できるものとして企画した。普段は交流のない施設の利用者と来場者との接点をつくる機会になればと、オープンアトリエや文化団体の方を公募した創作のひろばを行っている。図書館やショッピングモールの利用者が創作活動と出合うきっかけにもなっており、続けてきたことでノースの認知度も上がっている」と話す。

現在、人口約14万7千人の北区は、2003年に政令指定都市に移行したのを機に誕生した副都心。ノースは旧大宮市の市民文化交流施設構想を引き継いだものだ。旧浦和市に同様のプラザイースト、プラザウエストがあったことを踏まえ、加茂宮駅前の富士重工大宮製作所跡地を、ノースを含む芸術文化・行政・商業・業務などの機能を集積した「ノーザンハートきたまち」として再開発し、県北からの玄関口となっている。

さいたま市文化振興課の鈴田功至さんは、「北区は漫画家・北沢楽天ゆかりの地であり、ユーモアもノースのテーマのひとつになっている(＊2)。さいたま市は人口約10～15万人の区で構成されており、「ノーザンハート」きたまちにはこれから病院も出来るなど、都市機能が集約されて市民がいろいろなことをして過ごしやすい町になっている。文化施設の利用者には高齢者が多いが、ここは子育て世代も多く、ノースには若い世代も訪れている。そこを突破口にして、文化施設に無関心な働き盛りの世代が週末都内に行くのではなく、地元の施設で楽しむモデルケースになってくれればと個人的には思っている。そのためには地道に“小さな成功事例を積む”ことが重要だと考えている」と話す。

施設長に「ヒット講座は?」と質問すると、「やさしいヒップホップ」「陶芸入門教室」「ハーブ入門」「無添加パン教室」「おやこヨガ教室」、そして自分力を磨くメディア講座の「デジタルカメラ初級講座」「SNSはじめて講座」…という返事が返ってきた。その他にも中高年のための音楽講座(ジャズピアノ、カンツォーネ、長唄)、鉛筆デッサン教室、水墨画教室、書道教室、短歌入門など多彩な講座が並ぶ。そして、「市民が創作活動に触れあうきっかけを提供し、継続できる場を提供していくのが(PFI事業者として求められている)私たちの使命」と続けた。

さいたま市では活力ある都市づくりの新たな指針として「さいたま市文化芸術都市創造条例」(＊3)を掲げ、市民等が文化芸術を楽しむライフスタイルの確立を標榜しているが、ノースでは親が買い物をしている間に子どもがダンスを学び、役所の手続きのついでに長唄を習い、低料金で文化生活を楽しむスタイルが生まれつつある。これが地域力にどう還元されていくのか、新市のこれまでにないストーリーをぜひとも読んでみたいと思った。　(編集部：坪池・三田)